

自ら学ぶ教職員 活動報告書

グループ名 チーム 木材加工

テーマ 地域に愛される木材加工品の商品開発と技術力向上

取組のポイント・成果

新商品を開発するために、主に「木工旋盤」を使用した。この木工旋盤を使用することで、木製の皿やお椀といった食器を作ることができ、地域の身近な方でも愛用していただける物を作ることができると考えた。まずは、本校にある木工旋盤とバイト（刃物）を使用し試作品を作製した。はじめて使用する木工機械のため、感覚をつかむまでに時間がかかった。また、工程途中でバイトの研磨を行う必要があり、研磨を行うことで刃先の角度が変わってしまい、加工途中で割れてしまったものや、切削がうまくできない状態になることもあった。（図1・2）

そこで、バイト（図3）、研磨用のスロースピードグラインダー（図4）、研磨用のジグを購入し、安全に使用することができる環境を整えた。これらの道具がそろったことで、用途にあわせバイトを選ぶことができ、研磨も一定の状態にすることができるようになったため、常に切れ味の良いバイトを使用することができるようになり、今までより安全に使用できるようになった。

このように安全に使用できるようになったため、生徒に実習を行った（図5・6）。実習は、生徒の想像力を生かし、ワイングラス（図7）やコップ（図8）などの作製を行った。木材から切り離す作業を今まではノコギリで行っていたため、斜めになってしまうなどの問題もあった。そこで、卓上帯鋸盤（図9）を購入し、対応することができた。



図1



図2

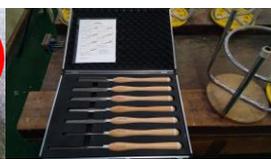


図3



図4



図5



図6



図7



図8



図9

今後の課題

学校での実習につなげていくためには、物を作る技術はもちろんであるが、それ以上に木材加工に関わる全ての人の想いを伝えることが必要である。そのため、林業従事者や製材業者の想いなども取り込むことが重要である。また、木工品の販路の確立も必要になる。今後は、本校の演習林から搬出した材を活用し、木工品が作成できるようにすることで、生徒が育てた樹木を木工品として販売することができ、より生徒の想いの詰まった商品を販売することができるようになると思う。

今年度は、商品開発まで到達することができなかつたので、今後は、技術講習会に参加し商品開発、販売まで到達できるよう実践していきたい。また、他校教員とも連携を図り、成果を普及できるよう努力したい。